

涇州城

住する無し。高場鎮は戸數約五十、其の周圍に土寨亦多し。道北庄、三十里堡、ホワンチャ黃家堡、土橋子、二十里堡、十五里堡を経て、タイピンコワン太平關に出れば、此より坂路に就く。是日行程七里餘、チンチヨウ涇州に入る。

涇州は戸數七百磚製の城壁を繞らし、官衙には直隸州衙門、巡警局(約巡警現在六十名)郵便局、電報局等、學堂には小學堂一、學生三十名ありて、軍隊は蘭州派出の馬隊一哨即ち三十名を置けり。宗教は回教九十餘人、耶蘇女宣教師二名、一は英國人、他は瑞典人にて、共に涇州に在る十數年、然れども未だ曾て、一の信者を得ずと。實に兩女師の熱心に感ずると共に、土俗の執着心の強き、亦驚くべからずや。

城は西北涇河に枕み、東南臺地を負ふ。結氷期は十月より翌年三月に亘り、雨期は七、八の兩月とす。土地は一畝價僅に三千文、其の收穫麥四斗を普通とせりと。人情淳朴、鴉片を好み、婦人の結髮頗る異様、宛然我元祿時代の形に似たり。

忽覺山中破蕭寂　　凝眸勒馬駐奔馳

佳人含笑侑佳茗　　丰采依稀元祿姿

予は馬車を雇はんと欲して得ず。爲めに廿四、廿五の兩日を此處に費せり。